

宮代町郷土資料館だより

えんがわ

第 63 号

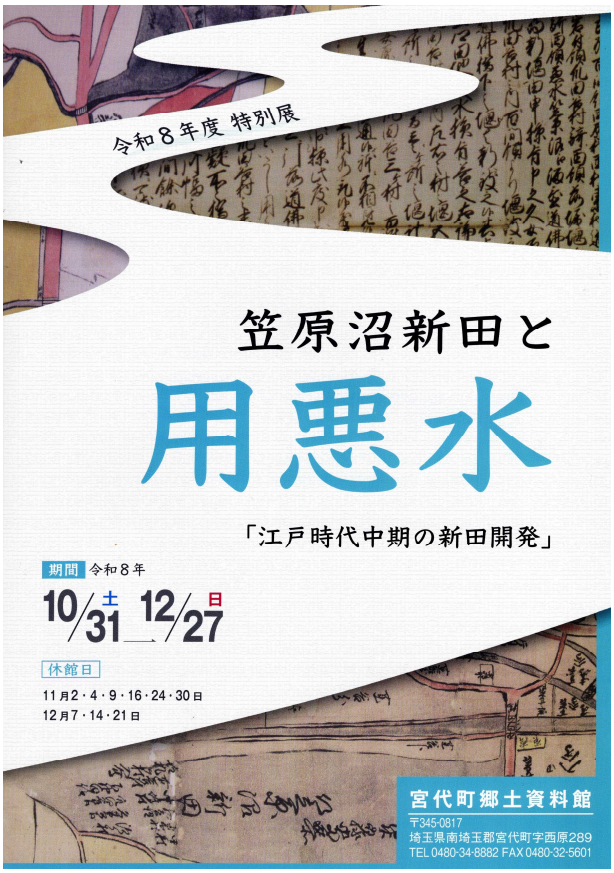
笠原沼新田と用悪水ー江戸時代中期の新田開発ー

宮代町郷土資料館では、令和 8 年 12 月 27 日（日）まで、令和 8 年度特別展「笠原沼新田と用悪水ー江戸時代中期の新田開発ー」を開催しています。

笠原沼は、寛永 2 年（1625）に大河内金兵衛により造成され、享保 13 年（1728）に井澤弥惣兵衛により新田開発が行われた新田です。同時代に開発された新田としては、さいたま市の見沼新田や久喜市の河原井沼新田、春日部市の黒沼新田があります。行田市からの見沼代用水が開削されたため、用水源である溜井の開発が可能となりました。

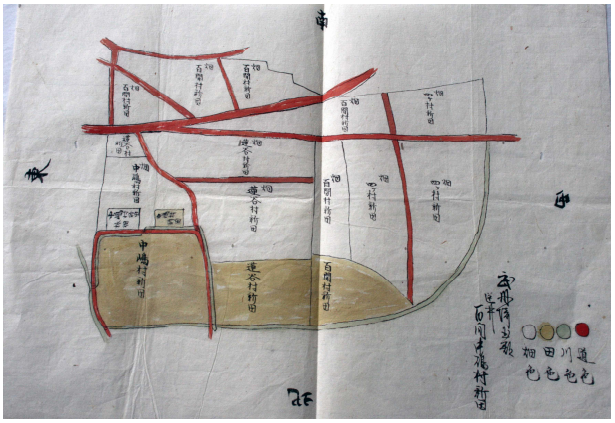
この展示会は、笠原沼展示 3 部作の 2 作目にあたります。1 作目は昨年開催された「笠原沼の造成と新田開発」、2 作目は今年開催の「笠原沼新田と用悪水ー江戸時代中期の新田開発ー」、3 作目が来年開催予定の「(仮称) 笠原沼の民俗」です。

今年の展示は、古文書を主体とする展示で、笠原沼の新田開発やその前後の笠原沼周囲の荒地の新田開発、逆井新田や下ノ谷新田の開発、溜井の開発として笠原沼と同時期に開発された河原井沼新田や黒沼新田についても触れています。この他、国納沼の新田や古利根川の流作場新田である和戸村新田や午高入百間村新田、百間中村新田、午高入百間西原村新田、秣場（まぐさば・雑種地・茅場）を開発した百間四ヶ村請新田などについても展示しました。



話は変わりますが、ここで問題です。「新編武蔵国風土記稿」に百間村や須賀村などの村が記載されていますが、唯一、持添新田（村に付属した新田）以外の村立新田が記載されていますが、何新田でしょうか？

答えは、百間四ヶ村請新田です。「新編武蔵国風土記稿」には、百間村や東村、中村、中島村、蓮谷村、須賀村、和戸村、粂原村、国納村の９カ村の他、百間四ヶ村請新田が記載されています。この新田について聞いたことがないという町民も多いと思いますが、この新田は逆井の西方、白岡市境にあった新田です。元々は７カ村持ちの秣場であった場所でしたが、百間東村の徳左衛門により百間四ヶ村請新田として独立した新田村として開発されました。しかし、家が４軒しかなかったことや範囲が非常に狭いことから忘れられた新田といえます。しかし、現在も百間四ヶ村請新田の名主の子孫の家の屋号が「シカムラナヌシ」と伝わっていることなど、地元では歴史が伝承されていることが分かります。



逆井新田絵図、百間四ヶ村請新田も見られる

この他、宮代町周辺の用水や悪水についても展示しました。用水は、江戸時代中期以降、見沼代用水系統の笠原沼代用水が宮代町内を張り巡らされました。

黒沼笠原沼代用水は、見沼代用水の中島圦（久喜市菖蒲町）から除堀分水で黒沼分水を分岐し、西粂原分水で笠原北側用水（中須用水）と笠原南側用水（百間用水）に分岐します。笠原北側用水は須賀村や百間中島村、蓮谷村を灌漑しました。一方、笠原南側用水は上野田伏越で野牛

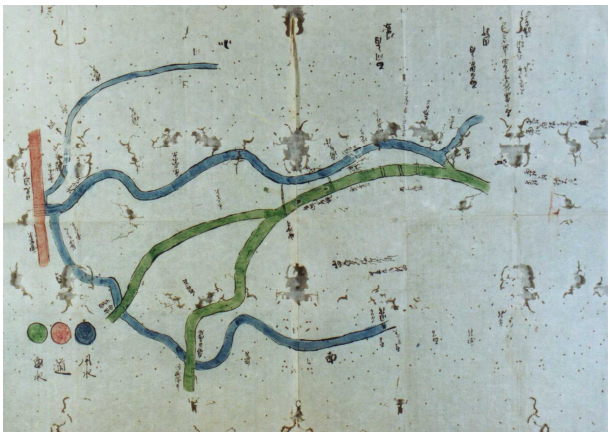


享保期以降の宮代町の新田分布図

高岩落堀と交差し、上野田掛渡井で爪田ヶ谷落堀と交差し、第六天分水で笠原北方用水（内郷用水）と笠原南方用水（百間用水）に分岐しました。笠原北方用水は百間村や百間西原組、百間金谷原組を灌漑し、笠原南方用水は百間東村や百間中村を灌漑しました。各所にある堰枠や分水では様々な水争いが起こりました。

宮代町周辺の悪水は古利根川です。古利根川は騎西領では大落堀の役割、葛西領では用水の役割がありました。宮代町の姫宮落堀や隼人堀などの落堀は、すべて古利根川へ流れました。このような落堀は、悪水組合が管理していました。また、様々な水争いもあったようです。

今回の展示は宮代町の新田のことや宮代町と関わりのある用水や悪水について、管理や水争いなどを非常に詳しく説明していますので、ぜひお越しください。



文化７年　用水悪水絵図

Ｍ１まつり＆資料館フェスタが開催

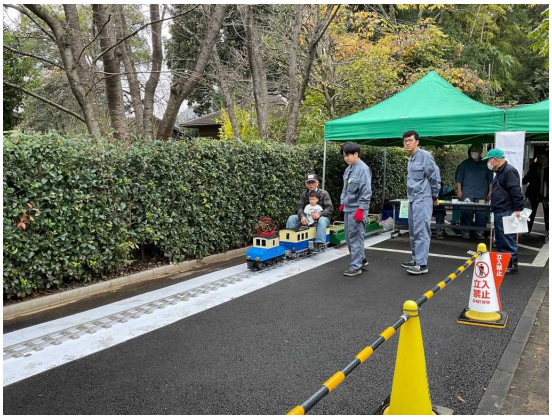
令和８年 11 月 15 日（日）、西原自然の森にて、資料館フェスタ 2026 が開催されました。

昨年度までの「西原自然の森フェスタ&Ｍ１まつり」から装いを新たにして、本年は初の試みとして、宮代町内にある産官学の３つの博物館が連携して開催されました。

東武動物公園は、「動物の骨格標本」と「ホワイトタイガー　コタとハクの成長記録のブース」が設置され、日本工業大学工業技術博物館は、「モーターで走るミニチュア電車を運行しよう」と「明治時代の缶バッジプレスとオリジナル缶バッジづくり」という体験型のブースを実施しました。

郷土資料館は、「縄文マグネットづくり」、本館学芸員による「町指定文化財建造物ツアー」と現在は文化財収蔵庫として活用している「旧進修館の特別公開」を実施いたしました。

【ミニチュア電車の運転】



M1 まつりに参加していた団体の方もお越しになって、本館の特別展を見学いただき、文化財建造物ツアーにも参加いただきました。社会福祉協議会とともに、双方のイベントに訪れる方が増えた結果になったと推定されます。ご協力いただいた皆さまに感謝申し上げます。

【動物の骨格標本ブース】



【町指定文化財建造物ツアー】



当日はあいにくの悪天候であり、開催直前まで雨が降っている状況でしたが、イベント開催の 10 時から 14 時まで雨量は少なく、ほとんど止んでおりました。それもあってか、幅広い年代の方にお越しいただき、大盛況の結果となりました。

郷土資料館としては、「町指定文化財建造物ツアー」には 23 名の方が参加し、「旧進修館の特別公開」には 80 名が見学され、「縄文マグネットづくり」も 34 名が体験され、多くの方が参加される結果となりました。

M1 まつりのスタンプラリーにも多くの方が参加したとのことで、お越しいただいた皆さまに感謝申し上げます。

【ちびっこ鉄道クラブのプラレール】



企画展「おひなさま」

女の子が誕生すると、幸せな一生を願って贈られるひな人形、平安時代に貴族が紙や布の人形で遊んだ「ひひな遊び」が語源といわれています。江戸時代には「五節供」が定められ、３月３日は「上巳(じょうし)の節供」として、女子の祝いとしてひな人形を飾って楽しむ風習が一般に広まりました。

当館では令和８年度第２回企画展「おひなさま」を開催し、明治末期から昭和４０年代のひな人形を展示します。また、当館は、進修館を中心に町内等で開催される「第１２回みやしろおひな祭りイベント」の一つ、「ひな祭りスタンプラリー」のスタンプ設置場所でもあります。ぜひ、おひなさまに会いにご来館ください。

会期　令和９年１月９日（土）～３月７日（日）
（スタンプラリー　２月５日（金）～２７日（土）



資　料　館　日　誌　抄

7月4日　みやしろ市民ガイドクラブ見学（7名）
7月11日～10月25日　企画展「温故知新～明治から大正期の絵はがきでめぐる観光地～」
7月14日　春日部市歩こう会見学（60名）
7月17日～8月9日　図書館「平和展」資料展示
7月17日　みやしろ森のようちえん見学（10名）
7月18日～11月29日　埼玉県博物館連絡協議会
東・北ブロック　キッズスタンプラリー
7月22～24・28～31日・8月5～7日　学芸員実習（2名）
7月23・24・28・29・31日・8月5～7日
夏休み体験学習教室・郷土資料館へ行こう（110名）
7月24日　放課後等デイサービスじゅれー見学（21名）
7月24日　教員初任者研修（5名）
8月1日　かやぶき民家で聞く昔話（13名）
8月1日　川端・姫川地区民俗調査
8月5日　ブロッサムジュニア蓮田見学（7名）
8月18日　放課後等デイサービスじゅれー見学（12名）
8月29日　沖の山地区民俗調査
9月1・2日　杉戸中学校2年生職場体験学習（2名）
9月13日　若宮地区民俗調査
9月18日　東部文化財担当者会例会を郷土資料館で開催
10月3日～11月23日　埼玉県立さきたま史跡の博物館へ道仏遺跡出土の韓式系軟質土器貸出
10月10日　西条原地区民俗調査
10月11日　藤曽根地区民俗調査
10月17日　岩槻久伊豆神社へ姫宮神社絵馬「熊野詣」のレプリカ貸出
10月19日　川島地区民俗調査
10月21日　笠原小学校3年生見学（35名）
10月31日～12月27日　特別展「笠原沼新田と用悪水―江戸時代中期の新田開発―」
11月3日　沖の山地区民俗調査
11月12・13日　百間中学校2年生職場体験学習（3名）
11月15日　M1まつり＆資料館フェスタ2026開催
縄文マグネットつくり（34名）
指定文化財建造物ツアー（23名）・旧進修館公開（80名）
11月15日　和戸宿地区民俗調査
11月23日　川端地区民俗調査
11月26・27日　前原中学校2年生職場体験学習（2名）

宮代町郷土資料館だより　えんがわ　63号
発行日　令和8年11月30日
発　行　宮代町郷土資料館
郵便番号　345－0817
住　所　埼玉県南埼玉郡宮代町字西原289番地
電話番号　0480－34－8882
ＨＰ　https://www.town.miyashiro.lg.jp
Ｅメールアドレス
museum@town.miyashiro.saitama.jp